福島県立医科大学 学術機関リポジトリ

FUKUSHIMA MEDICAL UNIVERSITY

Title	2022年度看護学部学術委員会活動報告：学内活動
Author(s)	高瀬, 佳苗
Citation	福島県立医科大学看護学部紀要. 25: 21-23
Issue Date	2023-03
URL	http://ir.fmu.ac.jp/dspace/handle/123456789/1980
Rights	© 2023 福島県立医科大学看護学部
DOI	
Text Version	publisher

This document is downloaded at: 2024-04-29T21:01:54Z

Fukushima Medical University

学　内　活　動

2022年度　看護学部学術委員会活動報告

看護学部学術委員会（高瀬香苗）

Ⅰ．はじめに

学術委員会は，2012年５月から要綱が施行され，国内外の学術交流の方針やあり方に関すること等を審議し，看護学の学術向上に寄与すべく活動を行っている委員会である．その活動では，大きく学内学術交流推進小委員会，学外学術交流推進小委員会，そして研究活動広報小委員会の３つにわかれており，これまで前者の２点の活動報告を紀要において継続して発表してきた．今年度は，これらに，研究活動広報小委員会による看護学部教員の研究活動の状況を加えて報告を行う．

Ⅱ．活動紹介

１．学内学術交流推進小委員会

担当：佐藤冨美子・森　　努・林　　紋美

本小委員会の活動目標は，１．教員個人の研究活動の活性化に資する，２．学部教員間の研究交流を促進する，３．学部教員間の共同研究を推進するの３点である．これらの目標を達成するための活動として，2017年度から「My Premium を語る会」を企画してきた．

「My Premium を語る会」は，本学部教員が取り組んでいる研究・実践・教育活動について語り合い，互いに刺激しあったり，学んだりすることで，教員の学術活動を推進する原動力になることを期待するものである．今年度は，教員間で語り合いたいテーマとして，１．研究力を身につけるために実施してきたこと，２．論文公表に向けて実施してきたこと，３．研究実践のために必要なこと，４．部門・領域内または大学間の共同研究の経験について，５．外部資金の獲得についての５テーマを候補にあげ，演者を募集した．その結果，今年度の「My Premium を語る会」は，本学部に博士後期課程が開設され，教員に期待される研究力は益々高まっていることを鑑み，研究をテーマにした講演を２回，各２名の演者の先生方の協力を得て開催することになった．

⑴　第１回「My Premium を語る会」

日　程　2022年12月７日㈬　17：00～18：00
テーマ　「研究実践のために必要なこと」
演　者　基礎看護学部門　教授　　黒田　るみ 先生
成人・老年看護学部門　講師
井上　水絵 先生

（２）第２回「My Premium を語る会」

日　程　2023年３月16日（木）　17：00～18：00
テーマ　「研究力を身につけるために実践してきたこと」
演　者　総合科学部門　教授　　後藤　あや 先生
母性看護・助産学部門　准教授
山口咲奈枝 先生

「My Premium を語る会」の参加者はこれまで看護学部教員を対象にしていたが，今年度は大学院生にも参加を呼びかけ，教員間，教員と学生間でお互いの研究活動について語り合える機会となるように企画した．この学術交流の企画が教員および大学院生の研究活動に貢献できることを期待したい．

２．学外学術交流推進小委員会

担当：立柳　　聡・山口咲奈枝・吾妻　陽子

⑴　今年度シンポジウム企画に至った背景

本学部では，予てより学内看護学会発足のための検討が求められていた．しかしながら，教職員に学内看護学会設立についてのアンケート等を実施したところ，以下の二つが特に大きな課題として浮かび上がってきた．

①　学内看護学会について具体的なイメージがわかない教員が多いとみられること．
②　学内看護学会に一定のイメージを持っていたり，関わった経験を持つ教員であっても，そのメリットに確信が持てなかったり，運営の課題となりそうなことに不安を抱いている者が多いとみられること．

そこで，本格的な設立準備に先立って，先行している大学の学内看護学会から概要を伺い，学内看護学会のイメージづくりを促進すると共に，設立や運営をめぐる課題とメリットを考えるヒントを探るためのシンポジウムを開催することとした．

⑵　シンポジウムの概要

シンポジウム「学内看護学会設立が拓く可能性と運営の展望」

日　　程　2022年11月２日（水）　17：00～19：00
会　　場　Zoom 配信によるリモート開催
シンポジスト

高橋　有里 先生（岩手看護学会／岩手県立大学看護学部基礎看護学講座教授）
水田真由美 先生（和歌山保健看護学会／和歌山県立医科大学保健看護学部基礎看護学教授）
参　加　者　21名
※ 職務の都合で当日参加できなかった教員が，後日，レコーディングされたビデオを視聴したことから，実質的な参加者はより多い．

看護学部長挨拶の後，開催趣旨，並びに，進行計画の確認を行い，二人のシンポジストからシンポジウムの趣旨をめぐるご講演をいただき，シンポジスト間での意見交換を経て，参加者全体での質疑応答に移り，最後に二人のシンポジストから総括のコメントと，本学の学内看護学会設立に向けた励ましをいただき，終了した．なお，学内看護学会をめぐるおよその共通認識として，以下をシンポジストとの間で共有したうえで，本シンポジウムの開催に至っている．

「大学・学部組織に組み込まれているか否かに関わらず，ある大学を拠点に活動し，多くの場合，その大学の教員，元教員，大学院生，大学院修了者，学部卒業生，その他趣旨に賛同する臨床現場の実践者や他大学の教員などから構成され，同窓会的な側面も持ち合わせている場合が多い．」

⑶　シンポジストによる発表趣旨と質疑応答

シンポジストからは，学内看護学会の設立経過，成果とみられること，組織の現状，当面する課題と今後の展望を中心に，所属している学内看護学会の概要をご報告いただいた．直後のシンポジスト間の意見交換の中では，学内看護学での活動を通じた卒業生とのつながりの維持や，同じ県内の他の看護学部との交流の機会ともなることなどの意義が浮かび上がった．その後，参加者との質疑応答に移ったが，「全国学会や専門学会との有効な住み分け，もしくは学内看護学会の独自な役割」，「学部卒業生への入会呼びかけ」，「大学院教育との連携」，「医学部の学内学会との関係」などをめぐってやり取りが展開した．

⑷　シンポジウムの成果

終了に当たり，本学部における学内看護学会の設立に向け，二人のシンポジストから助言をいただいた．「立ち上げと運営は大変でも，機運が高まった時に，その勢いで作ってしまうと，その後の運営はルーチンとなり，学部の日常の仕事の中に組み込まれていく．」，「継続の部分が一番重要．この点の工夫を重ねることが大切である．」総じて，学内看護学会は，「案ずるより産むがやすし」といった認識が共通していると思われた．シンポジウム参加者のアンケート結果では，全員が有意義な会だったと回答していた．また，自由記載では「学会設立のイメージをもつことができた」や「運営の意義，課題が明確になった」という意見が挙げられた．

以上のことから，本シンポジウムの開催は学内看護学会の設立に向けて有意義な会になったと考える．

３．研究活動広報小委員会

担当：川島　理恵・渡邉まどか

学術委員会は，教員個々人による研究活動の促進，共

表１　論文の種類別にみた投稿実績（2016-2021年度）

年度／種類	2016	2017	2018	３年間の合計	2019	2020	2021	３年間の合計
原著	18	28	20	66	24	29	41	94
総説・報告等	9	4	7	20	17	11	5	33
学会報告	48	29	42	119	43	31	36	110
講演・シンポジウム	12	3	8	23	9	5	12	26
著書・訳書	6	3	4	13	3	2	3	8
紀要	3	4	4	11	4	2	0	6
合計	96	71	85	252	100	80	97	277

表２　科学研究費助成金、民間助成金、共同研究事業費の採択実績（2016-2021年度）

年度／助成金の種類	2016	2017	2018	３年間の合計	2019	2020	2021	３年間の合計
科学研究費助成金	3	8	3	14	4	6	5	15
民間助成金	1	0	2	3	0	0	0	0
共同研究事業費	1	4	4	9	2	2	3	7
合計	5	12	9	26	6	8	8	22

同研究の活性化に向けた活動を継続している．本年度は，本委員会の活動を評価するために，過去６年分（2016年～2020年まで）の看護学部における研究活動の状況を調査した．調査資料は主に，福島県立医科大学業績集および看護学部紀要であり，年度毎に論文等の種類別の投稿数を数字化した．分析においては，年度毎の集計の後，2016年～2018年の３年間と2019年～2021年の３年間の累計を比較した．概観として，2016年～2018年の業績数の総数は252件，2018年以降の業績数の総数は277件であり，2018年以前と比べて25件増加していた．

研究論文の投稿，発表等については表１に示す．2016年～2018年について，具体的には原著論文が66件，総説・報告等が20件であった．学会報告は119件，講演・シンポジウムは23件，著書・訳書は13件，看護学部紀要への投稿は11件であった．2019年～2021年については原著論文が94件，総説・報告等が33件であった．学会報告は110件，講演・シンポジストは26件，著書・訳書は８件，看護学部紀要への投稿は６件であった．

外部資金の獲得数については表２に示す．科学研究費は2016年～2018年で14件，2019年～2021年では15件であった．民間助成金の採択数は2016年～2018年で３件，2019年～2021年では０件であった．共同研究事業の採択数は2016年～2018年では総数が９件，2019年～2021年では７件であった．外部資金の獲得数については，2016年～2018年と2019年～2021年を比較して大きな差は見られなかった．

以上より，まとめとして，コロナ禍における2020年～2021年は例年に比べ発表数に減少はあるものの，論文本数については多くなっていた．なお，今回の調査は福島県立医科大学業績集および看護学部紀要に記載されている数字のみ使用しており，個々の教員の業績のすべてを表すものではない．調査にあたり重複は複数の学術委員会メンバーで確認をしているが，わずかな誤差がある可能性もあり，その点ご了承いただきたい．

Ⅲ．おわりに

学内学術交流推進では，教員の看護研究報告会から教員が大事にしている看護研究について語る，My Premium を語る会へと転換し，気軽に研究に関して意見交換する場へと進化させ，参加者から好評を得ている．また，学外学術交流推進小委員会は，本年度から学内学会の可能性について検討を始め，その基礎として国内他大学から学会運営の実際について講演会を実施した．今後は，これらをもとに議論を深めたい．そして，研究活動広報小委員会では，教員の経年的な研究活動について既存の資料からまとめた．それぞれの小委員会が，これまでの活動内容に加えて新たな取り組みを行っており，委員会で議論し合いながら得た知見を本紀要にて提供した．学術委員会委員としては，本学部教員の看護学の質の向上にこれらを役立てていただくことを期待している．

令和５年３月

「福島県立医科大学看護学部紀要　第 25 号」正誤表

看護学部紀要委員会委員長

令和５年 3 月に発行しました「福島県立医科大学看護学部紀要　第 25 号」の中に下記のとおり誤りがありました。謹んでお詫びして訂正いたします。

記

P21　学内活動　「2022 年度看護学部学術委員会活動報告」

誤　看護学部学術委員会高瀬香苗

正　看護学部学術委員会高瀬佳苗